

第四回 日本私立幼稚園

教育研究全国大会をおえて

笠 原 秀 定

行われた。

第一分科は、議長武南高志氏（東京）、副議長藤久吉氏（宮城）、菅沼義子氏（静岡）によつて会が進められ、次の三題について研究協議した。

一、健康教育について

歌舞、と次第によつて進められていったが、私立幼稚園に勤続二十五年以上の園長三十名、二十年以上の教職員三十六名（いづれも昨年表彰をうけた者を除く）が表彰され、また昨年の大会開催地愛媛県私立幼稚園協会にたいする感謝状の贈呈は、万場の祝福と感謝の拍手をあびた。

またとくに開会式には、文部省からは大臣に代つて白井文部政務次官が臨席され、栃木県知事、日光市長、船田前防衛府長官、輪王寺門跡等の祝辞は、いすれも幼児教育の問題と、教育者にたいする激励のことばかりで、行政面でも私立幼稚園にとっていろいろ問題のあるとき、誠に意義深いものがあり、参会者一同は明日の幼児教育のために覚悟を新たにしたことであろう。

第二分科は、議長樺村弁市氏（香川）、副議長友杉講道氏（東京）、古賀淑子氏（佐賀）によつて、左の二題について協議した。

三、放送教育について

第三分科は、議長長沼依山氏（埼玉）、副議長佐藤晃海氏（京都）、船田小常氏（栃木）によつてすめられ、文部省より、管理局振興課説田課長補佐が出席して、左の四題について協議した。

一、設置基準にそなうために生ずる問題点について

二、園児の災害保償制度について

三、幼稚園教育の徹底化方策について

四、私立幼稚園のP.T.A.または母の会のあり方について

以上の方について二日間にわたつて討議されたのであるが、本年の協議題は、各都道府県より提出されたもので、提出県においてはそれぞれ今までの研究をまとめ、参考資料を提出することとし、その中心点、問題点を明かにした。また出席者は予め協議題に対する意見を持つてきたので、

第四回を迎えた日本私立幼稚園教育研究全国大会は、七月三十日、三十一日の両日、日光市公会堂において、北は北海道、南は鹿児島にいたる全国より二千名の参会者により、盛大にかつ意義深く開催することができた。昨年四国松山市における大会において、本年は是非日光で、との参加者の強き要望にこたえて、栃木県幼稚園連合会は、一年の間万端手ぬかりなき準備を進められ、本大会を迎えたわけで非常な成功裡に終つたその功績は、実に大きなものがある。

天下の日光、自然の景観と、華麗な社殿、殿堂の人工美を兼備した「日光を見すして結構と云うなれ」と昔からいわれている日光において開催されたこと、しかも輪王寺を始め、日光全市をあげて歓迎されたことも、盛会の一因であろうが、二千名の者が全國から参加され、しかも私立幼稚園連合会の議されることは、日本私立幼稚園連合会の著しい成長と、教職員の研究心の向上によるもので、幼児教育発展のため大きな前進といえよう。

開会式は、七月三十日午前十時半に開式され、君ヶ代、主催者挨拶、歓迎の辞、勤続教職員表彰、感謝状贈呈、祝辞、幼稚園

各分科会における発言は活潑にして、進行上にも有効で非常に意義深いものがあつた。

三十一日午後一時より、各分科会の議長によりその報告が行われたのち、大会宣言文が発表され、二日間にわたる充実した大

会の全日程を終り、午後二時より閉会式にうつった。閉会式では、佐賀の古賀氏より、本大会開催について、開催県のつくされた非常な努力に対し、感激的の謝辞が述べられ、午後二時半閉会の幕はくだされ、来年の山口県における第五回大会に再会を約して散会した。

本年は開催日直前において、北九州に水害があり、本大会において参会者一同の厚き友情によりお見舞金が拠出され、佐賀県代表者に持参いたいことは心あたたまる思いがしたことをである。何事においても三回までは続くものであるが、四回目はだれ気味になるのが普通である。しかし本大会は第四回を迎えて一層盛會に、かつ充実して来たことは実によろしくべきことで、いよいよ本研究大会も軌道にのつて来た感を深くする次第である。

幼児教育の重要性がますます強く叫ばれている今日、わが国幼稚園教育の大半を受持っている私立幼稚園としては、行政面とともにその教育についても、互に連絡をとり、力をあわせて研究を重ね、その量におけると同様、質においてもわが国幼稚園教育のために、すぐれたものを持つように努力して行かねばならない、来年は山口県に

おいて第五回を迎えるのであるが、さらに充実した大会をもつことを念願する。

なお本大会に先だって、七月二十九日午後一時より、日光小西別館において、日本私立幼稚園連合会昭和三十二年度（第十

回）総会が開催され、出席者約三百名にて、これまた非常に熱心に、事業報告、議案が審議され、昨年より更に組織強化されたことを強く感じた次第である。

（明徳幼稚園長）

第四回全国国公立幼稚園研究協議会の報告 斎藤敏夫

一、研究協議会の主題

今回の研究協議会は、幼稚園教育の広汎な分野から自然発生的な諸問題をとり上げるということではなく、研究協議会の研究主題をあきらかにし、この主題を解明するための分科会であり、研究発表であるよう

にとの意図で計画された。すなわち「幼稚園教育要領を具体的に展開するにはどうするか」を主題とし、「幼稚園教育要領を現場で実施して一年間」の成

果が研究発表として、会員の前に提示され、とくに問題となつたことがらが、四つの問題に集約され、各分科会で分担し研究されることになった。

二、会員に気安さと共感を与えたも

氣安さと会員としての共感を抱かせるのに大きな役割を果した。休憩時や全体集会の前に行われたこの企ては、会員を暑さと緊張感から解放するために、またとない働きを示した。

開会式につづく江波女史の「職場における人の发展」と題する講演は、会員に多くの示唆を与えるとともに、仲間として意識を培うのに有効であった。

三、研究発表について

研究発表は、函館幼稚園の「教育要領を現場に展開してみて一年」をはじめとして七人の方からなされたが、この七人の方のお話を伺つて感じたことは、幼稚園教育の柱ともいうべき基本的目標と、権組ともいすべき六領域の内容とを、いずれも立体的に受けとめ、この中に塗りこむ壁や、はめこむ板をどうするかについて、各園それぞの環境を見究め、環境からくる社会的 requirement をはあくし、児童の能力や状態をしつ

梅雨明けの暑気の第一波が、どつと押しよせた第一日に、開会式の前座を受けたレクリエーション係りの歌唱指導は、全国各地から来会された会員諸氏に、ホットした